

一
問一 1 イ 2 ウ

問二 娘が机の前で書き物をしているということは、漢字の書き取りのような勉強だ
と思い、とりたてていうほどのことではないと決めつける気持ち。

問三 A たとえ B まるで

問四 自分の好きな本の一節

問五 何の意味も持たないただの白い紙だったページに言葉を書くことで、自らの手
で何か意味を与えることができ満足し得意な気持ち。

問六 両親

問七 「私」の行っている書く作業は、理解はされずとも、一つのことを熱中して行
っている姿勢は子供扱いせず個性として尊重されるべきで、「私」が成長し独自
の世界を作るうえで、大切なものだと思ったから。

問八 「私」がもし自分が孤児だったらどのような人生を送っていくことになったの
かを想像して書いた架空の物語のこと。

問九 万年筆のインクが切れることなく「私」の思う通りの言葉が書けたということ。

問十 C うろたえ D 呪い

問十一 ウ

問十二 ア

二

(1) を (2) ○ (3) 召し上がって

三
問一 紙風船を打ちあげても落ちてくると同じように願いごとも多くの場合叶わずに終わるということ。

問二 (1) 一番大切なところ (2) 比喩

問三 ア

問四 一見まったく違う言葉同士から共通点を見出し、比喩表現を用いて説明し、思ってもみなかった調和を生み出すこと。

問五 1 エ 2 ウ 3 イ

問六 「出血サービス」とは本来「出血するような」採算のとれない犠牲を払うときに使う比喩であるという意味だが、実際に血が出たため、たとえでなくなったということ。

問七 感動させ

問八 A 火 B 舌

問九 ゴルフをやったことがない筆者が赤ちゃんを背負う感覚にたとえられることでスウィングの仕方をイメージできたように、肉体的な技術を伝達するのに比喩でイメージを伝えることでコツがつかみやすくなるから。

四
問一 (1) 流派 読破

(2) 歴訪 作法

(3) 待望 大枚

(4) 陛下 平易

問二 (1) ぞうきばやし
(2) うわぜい